

令和6年度佐賀市環境審議会 第1回地球温暖化対策等検討部会 議事録

◆ 開催日時

令和6年7月19日（金） 14時00分～16時00分

◆ 開催場所

佐賀市役所 本庁 4-1会議室

◆ 出席委員（敬称略）

岡島俊哉（会長）、関清彦、草場真智子、松尾真理子、高橋朋子、中村佳代、中野千歳

◆ 欠席委員（敬称略）

松本考司

◆ 事務局

宮崎環境部長

環境政策課（梶山副部長、石川室長、西岡主査、小柳主任、浦川主任、前田主任）

循環型社会推進課（王丸副課長）、環境保全課（大家課長）

衛生センター（熊添所長、吉原副所長）

◆ 傍聴者

1名

◆ 議事要旨

1 開会・挨拶

2 部会長の選出

3 報告事項

(1) 第2次佐賀市環境基本計画の進捗状況について

《事務局説明》

資料1

《意見交換等》

○会長

ただいま事務局から説明を受けた。ご意見、ご質問があれば伺いたい。

○委員

計画どおりに実施できなかった取組（C評価）」の評価について、目標値を変更したほうが良いのではないかと。様々な取組を行っているのに、目標値が高すぎるせいで達成できないのなら、小さな目標の達成を積み上げていった方が進捗しているというイメージを与えられると考える。

○事務局

C評価とした施策は、法的な制約や、コロナ禍の影響があつて、企業の設備投資等につながらなかった取組があつたため、一部計画どおりに実施ができなかったと評価している。全体としては、ごみ量も減少してきており、着実に成果が出ていると捉えている。

○委員

話を聞いて、あえて課題としてC評価をつけることで、改善したい取組をピックアップするという考えであると感じた。C評価が一つもないよりも、今後の重点目標として努力していく部分として示してあげたほうが良いと感じる。

○事務局

ご意見を参考に、評価の仕方の改善を検討したい。

○委員

事業者のリサイクル推進や生ごみ処理機の導入推進については、どのような手法でアプローチをしているのか。

○事務局

生ごみ処理機には、家庭用と事業用があり、共にホームページで広報している。家庭用は人気があり、予算上限まで申請がある状況で、相談も多い。一方、事業用は、業種が病院や旅館などの業種を中心に、折を見て直接情報提供をしている。興味は持ってもらえているが、導入にはいたっていない。

○会長

今の関連で「バイオマス産業都市さかの構築」について、以前、下水処理センターで堆肥化等を行われていたが、関連はあるのか。また、C評価との関わりはあるのか。

○事務局

下水浄化センターでの汚泥堆肥化も、この構想に位置付けられた取組で、市民の利用も多

く、好評と聞いている。C評価は、先程説明した事業所用生ごみ処理機の導入実績がなかったことに関する評価であり、取組としては別のものである。

#### ○会長

3Rの推進啓発と環境教育の推進について、最近のデータで「大人の半分近くが過去一年間で学んだことがない」というデータがある。この状況で推進啓発を行っても、一部の人以上しか参加しないのではないかと。そして「学んだことがない」と答える大人が増加傾向にあるが、どのように対応していくのか。

#### ○事務局

興味がない人に、どのように関心を持ってもらい環境について学んでもらえるかが重要であるため、人が集まる商業施設で環境イベントを開催し、子ども向けワークショップなど親子で環境について考えてもらうような企画をしている。また、清掃工場に小学校から見学に来た際、子どもたちには学んだことを家に帰って家族と話し合ってもらいたいと案内する者が伝えており、実際に、後日家族で見学に来る方が増えてきている事例もある。

#### ○委員

色々な政策を実施されているが、何をすれば（成果指標の）評価が上がるのか。例えば「③1人1日当たりごみ排出量」については、例年は緩やかに減少していたがR5は大幅に削減されている。どんな政策があつて、どんな手法が適切なのかという評価をすると、どこに重点を置いたらいいかといったことが見えるのではないかと印象を受けた。

#### ○事務局

一つの取組だけで成果に大きく影響するのは難しい面もあるが、一つ一つの取組の積み上げが大きな成果につながっていくということで取り組んでいる。直近の1人1日当たりのごみ排出量は、前年から約3%減少しているが、その内訳を見ると、事業系ごみは横ばいで、家庭系ごみが4.5%と大きく減っている。また、一昨年まではコロナ禍の影響などで事業系ごみの減少傾向が強かった。ごみの組成調査を定期的に行い、ごみの現状を改めて確認することにより、重点的に取り組むべき次の目標が定まるのではないかと考えている。

#### (2) 佐賀市環境マネジメントシステムの運用状況について

《事務局説明》

資料2

《意見交換等》

○会長

都市ガスの使用量が減少しているが、温暖化の好影響という解釈はできるのか。(グラフが)横ばいや少しずつ上昇している場合に、社会の変化としてこういう方向になっているという解析はどこまでできるのか。環境政策課だけではなく、全庁的に調整を行って取組を進めてもらいたい。

4 議事

(1) 第3次佐賀市地球温暖化対策等実行計画策定(区域施策編・事務事業編)について

《事務局説明》

資料3-1、資料3-2

《意見交換等》

○委員

資料3-1、6ページ目の目標達成に向けた取組の考え方で、エネルギーの最小化とある。人海戦術で達成できる部分もあるが、投資していかなければいけない部分もどうしても出てくる。勿論、国と協働していく必要もあるが、市としてはどのように削減していこうと考えているのか。

○事務局

「脱炭素社会」は取り組まなければいけない事項である。行政レベル、特に基礎自治体としてまず取組むことができるのは民生部門の行動変容への働きかけが重要だと考えている。製造業等においては、サプライチェーンの中で商品を卸していく側が脱炭素対策に取り組んでいかないと今後は取り残されていく社会が待っている。日本全体の二酸化炭素排出を見ると、製造業だけで半分を占めているので、特に対策が必要な部門である。佐賀市役所としても、事務事業を行っている事業所として、高いハードルがあると自覚している。今後は公用車の削減や、電気・水素自動車への転換が必要になってくる。非常に高い目標ではあるが、脱炭素は取り組まなければいけない事項であるため、人々が取り組もうと積極的になる機運作りが我々に課せらせている課題であると考えます。

○委員

資料3-1、3ページ目の「各分野の目指すべき姿」や資料3-2の「取組方針(案)」に「ウォーカーブルシティ」「自転車、徒歩での移動促進」とあるが、これから高齢化の進行が加速することや、車いすの利用者等の観点を考慮すると、歩けない方の視点が不足しているのではないかと。

○事務局

ご認識のとおりである。タクシーも運転手不足という課題も浮上してきている。物流や人の移動は、どのような将来を作らなければいけないかといろんな視点を盛り込みつつ記載すべきだと感じた。修正ができる部分は反映していきたい。

○委員

現在、公園はどんどん作ろうとしているのか。歩きたくなる街として、公園が増えると市民の憩いの場になると感じる。

○事務局

人口減少が進行する中で、維持管理のコスト等が課題となってくる。そのため、公園を増やしつつ効率的な管理方法が計画に求められるのではないかと考える。

公園に関しては、R5に高木瀬の緑化センター跡地に高木瀬ふれあい公園が1件、新しい公園として増えている。成果指標と実際の増減はあまりリンクしておらず、例えば駅周辺再開発のための街路樹伐採などがあって、アンケート結果に偏りが出てしまうなど、様々な要因の影響が見られる。

○委員

資料3-2、1ページ目に「公共交通機関の利便性の向上」とあるが、バス停の間隔が遠く、田舎の方は自分が降りたいところとバス停の位置に乖離があるため、自由な場所で乗降できるバスがあれば便利だと考える。

○事務局

貴重な意見だと思う。県内でも田舎に行けば、そのような仕組みを行っている場所はあると思われる。佐賀市の市営バスではそういったサービスは行っていないと思われるので、こういった意見があるということは伝えて、ある一定の郊外では可能かどうかを担当部署につなげていきたい。

市内の特に街中では難しいが、一部地域（特に中山間地域）ではデマンドバス（タクシー）が途上ではあるが出現してきている。運営していく上で、いかに利用してもらうか、利用者がいなければ採算がとれないため、そういった点が課題になっている。

○委員

資料3-1、3ページ目の「各分野の目指すべき姿」の農林水産に「エリートツリー」があるが、こういった樹木の実証や植樹は進んでいるのか。

○事務局

県が開発した「サガンスギ」は、成長が早い、花粉が少ない、従来 of 杉と比べて強度が高

いという性質を持ち、県内での普及が行われている。期日は不明だが、佐賀市でも市有森に植樹を行っている。しかし、苗木生産農家が少なく、需要はあるが供給が追いついていないのが現状である。成長が早いという性質から、今後増加していくと考える。

○会長

(サガンスギは) 寿命は長いのか。

○事務局

(杉の生育に) 通常 50 年かかるといわれたのが、(サガンスギでは) 30 年ほどで成長するというので、県の方でも実証が進められている。杉の木も地質によって合う合わないがあり、市内で試験的に植えているところも生育に差がある。これから品種改良等も併せて行っていくという話を聞いている。

○委員

教育現場にいるため、子どもレベルで考えてしまう。例えばこれから夏休みで、各家庭で取り組みましょうといった取組を行っていくが、ほんの小さなことで、紙の再利用やごみの分別、電気や水の節約といったわずかなことではあるが、それらをどこでもやっていく、みんなが取組むことで 2050 ゼロカーボンという大きな目標に繋がっていくのではないかと感じた。

○委員

2050 のあるべき姿を考えたときに個人や家庭をベースとして、プラス  $\alpha$  で取組を行い、大きな対策について周知していかなければ届かない大きな目標であると感じた。建設業をやらせていただいているため、特に建築物の脱炭素化で ZEH の推進等を行っている。ZEB についてはコスト等で断念するお客様が多いと感じている。環境意識を持った方はたくさんいらっしゃるので、企業が脱炭素に取り組むという時に支援やフォローがあると取組の後押しになるのではないかと考える。重機等を扱う際には排出されるガスがより環境に負担の少ないものを選択する、重機自体を変える等を行っている。企業ベースでの取組をさらに広げていけたらと感じる。また、「ウォークブルシティ」について、佐賀アリーナまで足の不自由な方向への移動手段が試験的に導入されていたかと思う。そういった乗物と歩行者・自転車の通路は別にする等の工夫や導入、取組の加速が進めばよいと感じる。

○委員

資料 1、「⑨生活環境苦情件数」について、実績値が目標値を大幅に上回っているが、どのような苦情が多かったのか。

○事務局

R5 の生活環境苦情件数 577 件のうち、犬猫に関するものが 57 件、衛生害虫が 15 件、カラスが 45 件、アライグマが 181 件となっている。また、空き家・空き地の相談件数が 256 件ある。

R4 の生活環境苦情件数の実績値が 659 件で、空き家相談件数が減少したこともあり、R5 の苦情件数の実績値は減少したものの、目標値である 300 件からすると依然として苦情件数が多いのが現状である。市民の方からいただいた相談・苦情には対応をしており、今後も真摯に対応を続けていく。

○委員

最近空き家が増えていて、空き家の管理や対策については、市は何か考えているのか。とくに一人暮らしの高齢者の方が亡くなると、相続相手である子が県外に出ているのもあって、すぐに空き家になってしまう。

○事務局

都市政策課の空き家対策室が担当として対応に当たっている。苦情件数の目標値という表現についても、10 年前の同じ苦情であった場合にこの件数で止まればいいということから設定してあるが、当時はアライグマや空き家等の課題は想定していなかった。

○会長

空き家の活用法とかはないのか。

○事務局

NPO 法人で空き地・空き家活用の取組を行っているところが出てきている。

空き家の苦情については、苦情が入ったら所有者の方を探し連絡して対応していただくのが基本となっている。よほどの場合、行政代執行があるが、個人の所有物なため、行政がどこまで手を出すかが難しい。

○委員

資料 3-1、2 ページ目「2050 年佐賀市の将来ビジョン」をイラストに落とし込んでいるところがよいが、イメージしにくい点が 2 つある。一つ目は農地の中に赤い自動車があるが、これは電気や水素が燃料となっているということか。

○事務局

そのとおりで、あとは自動運転技術等も表現している。

○委員

車だけぼつんとあるとイメージがわきにくいので、イメージしやすいように文言を足してほしい。二つ目は奥に山があり森林から「+CO<sub>2</sub>」と表記されているが、森林は吸収源であるため+の表記は排出しているようなイメージを持ってしまうのではないか。

○事務局

表記については改善をしていく予定である。やはりわかりにくい部分があるため、わかりやすさを足していきたい。

○委員

このビジョンイラストを市民の目に付くところに掲示してもよいのではないか。佐賀市の良い印象を与えるポスターになると考える。

○会長

企業への脱炭素や環境行動へのサポートはどの課で行うのか。

○事務局

直接の脱炭素に向けたサポートという視点では答えにくい。環境を巻き込んだという形では、佐賀県と共同で「SAGA ネット・ゼロコンソーシアム」というものを立ち上げて、中小企業の脱炭素に向けた支援を昨年からは開始している。

○会長

課の連携というわけではないのか。

○事務局

環境部だけの問題ではないため、複数の部署が関わる問題であるため難しい。

○会長

市民の方も取り組めるようにしていくためには、1人1人がやっていくことすらも超えて、仕組み化していくことも重要かもしれない。

○会長

それでは、ほかに意見がないようであれば、本日の議事は終了としたい。

5 その他

なし